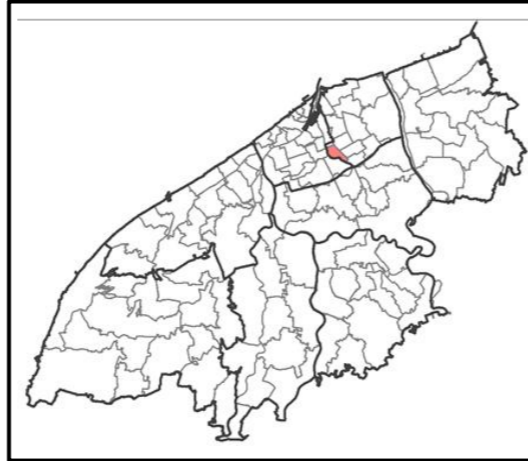


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

石山1・2丁目		
江南1～6丁目		
紫竹3～5丁目		
紫竹山3丁目		
東明1～8丁目		
南紫竹1・2丁目		

●位置図



●施設・団体

市役所・区役所等	石山出張所	
警察・消防	—	
消防団	東方面隊 木戸分団・石山分団	
水防倉庫	紫竹山	
一時避難場所	東山公園	
広域避難場所	—	
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・保育園	栄光幼稚園／東明保育園、ナカノスイミング保育園
	高齢者福祉施設	—
	障がい者福祉施設	大樹の家

●人口

	総人口	10,049人	地区の割合	市の割合
0～4歳	489人	4.9%	4.0%	
5～14歳	799人	8.0%	8.5%	
15～74歳	7,855人	78.2%	74.6%	
75歳～	906人	9.0%	12.9%	
65歳以上人口	2,071人	20.6%	26.0%	
世帯数	4,597世帯			
一世帯あたり人口	2.2人／世帯		2.5人／世帯	
人口密度	7,724人／km ²		1,108人／km ²	
昼間人口	8,122人	夜間の80.8%		

●建物関連指標

	総棟数	3,251棟	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,141棟	35.1%	44.2%
	S56年以降建築	1,444棟	44.4%	46.7%
	計	2,585棟	79.5%	90.9%
非木造	S55年以前建築	237棟	7.3%	3.4%
	S56年以降建築	429棟	13.2%	5.7%
	計	666棟	20.5%	9.1%
S56年以降建築物	1,874棟	57.6%	52.4%	

S55年以前：主に旧耐震 S56年以降：主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。

●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]江南小学校	0.8	4	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ][ツ]石山中学校	0.3	4	○	3階以上	2階以上	—
[ツ]パークサイドハイツ	-0.1	3	—	3階	—	—

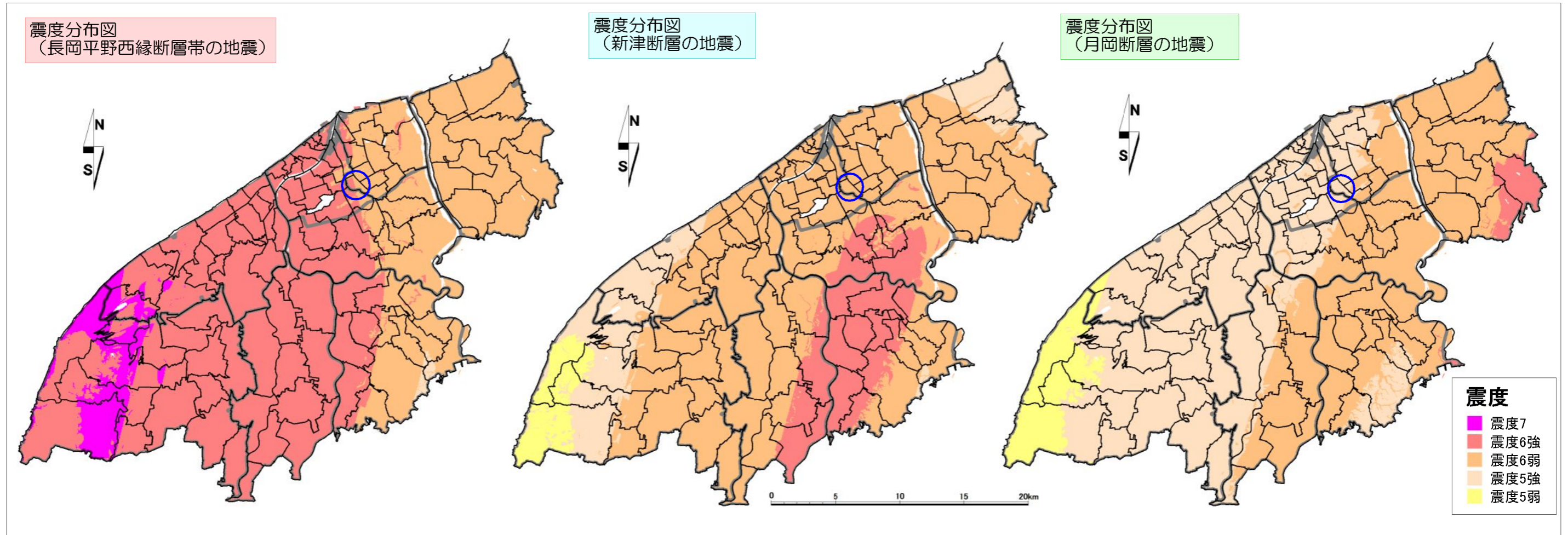
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]笹口小学校	-0.1	4	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ][ツ]高志中等教育学校	0.8	4	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ]桜が丘小学校	0.4	4	○	—	2階以上	—
[ヒ]中野山小学校	0.8	4	○	—	2階以上	—
[ヒ][ツ]竹尾小学校	0.9	4	○	3階以上	2階以上	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」・避難可能な階数、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。 津波による浸水は、周辺より標高の低い地域で想定されている。
洪水・土砂	阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水、通船川流域の洪水及び鳥屋野瀧流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、信濃川下流の洪水では、地区の全域で浸水の可能性があり、阿賀野川の洪水では地区北部の一部を除き、広い範囲で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

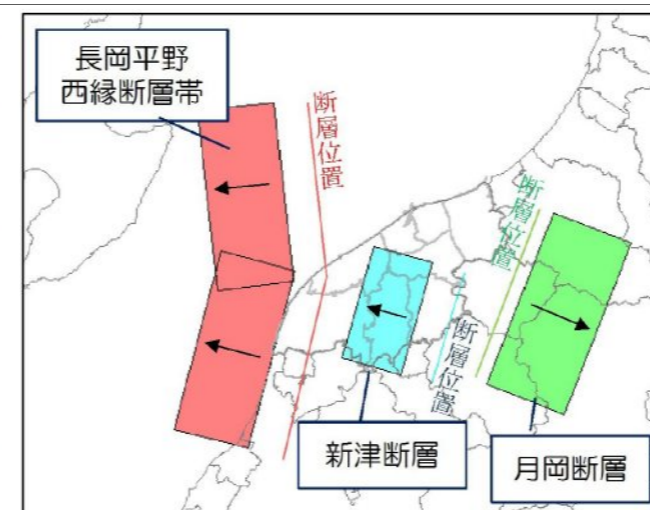
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

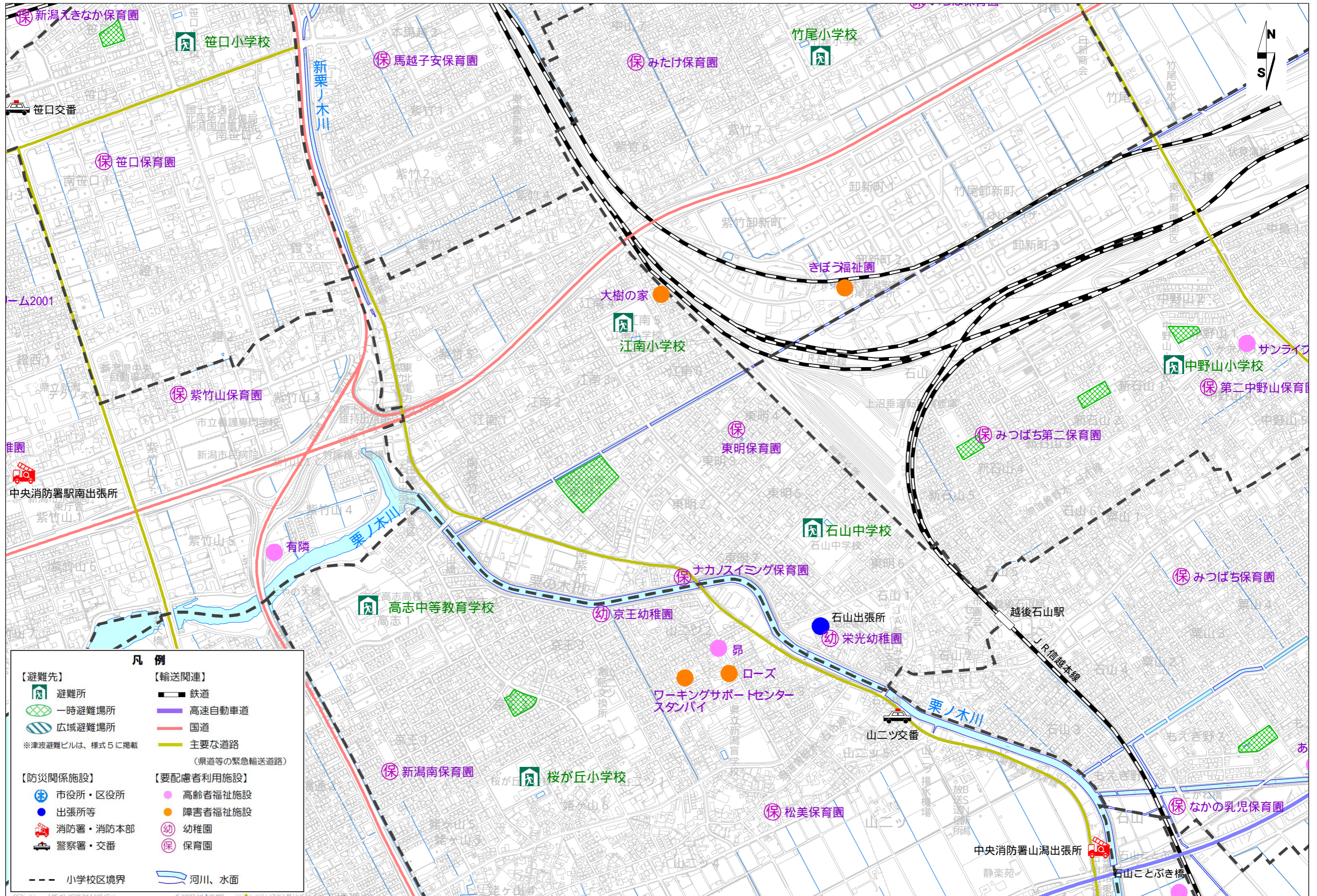
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



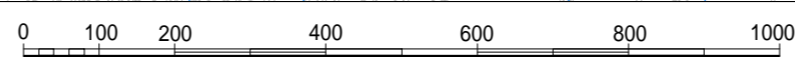
← は、断層の傾きを示しています。

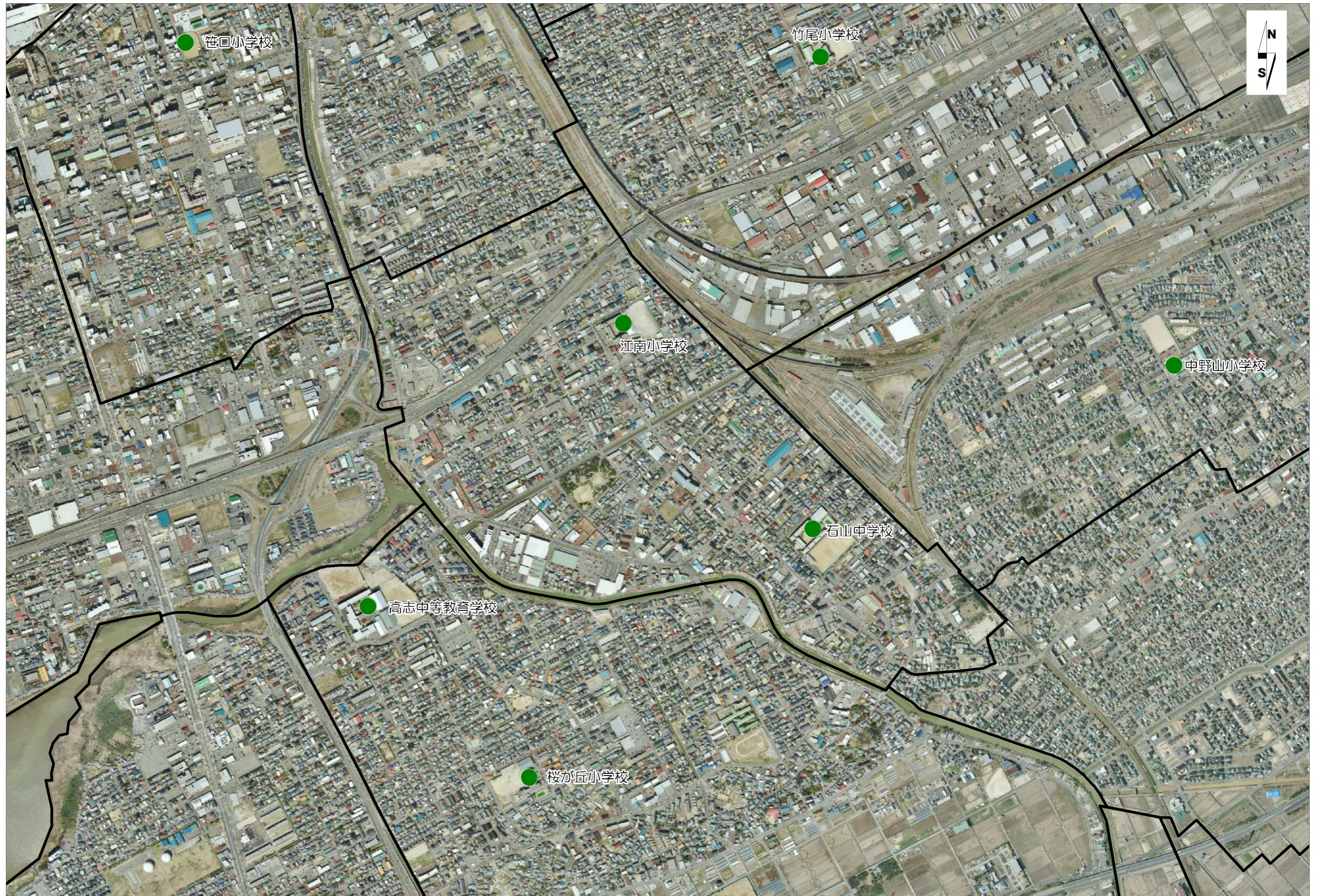
様式3 防災地図

江南小学校区



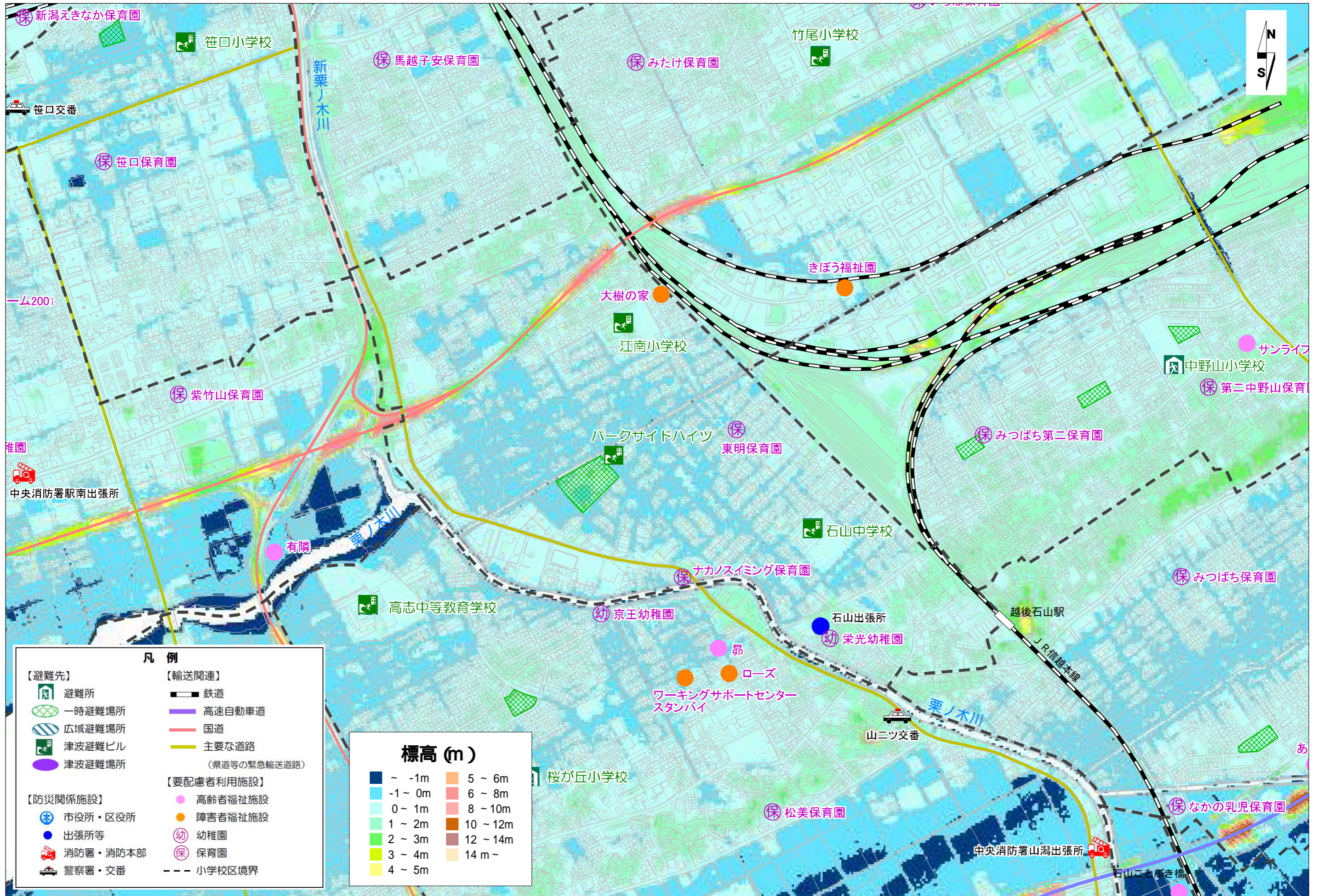
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)





様式5 標高分布図

江南小学校区

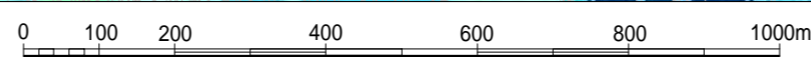


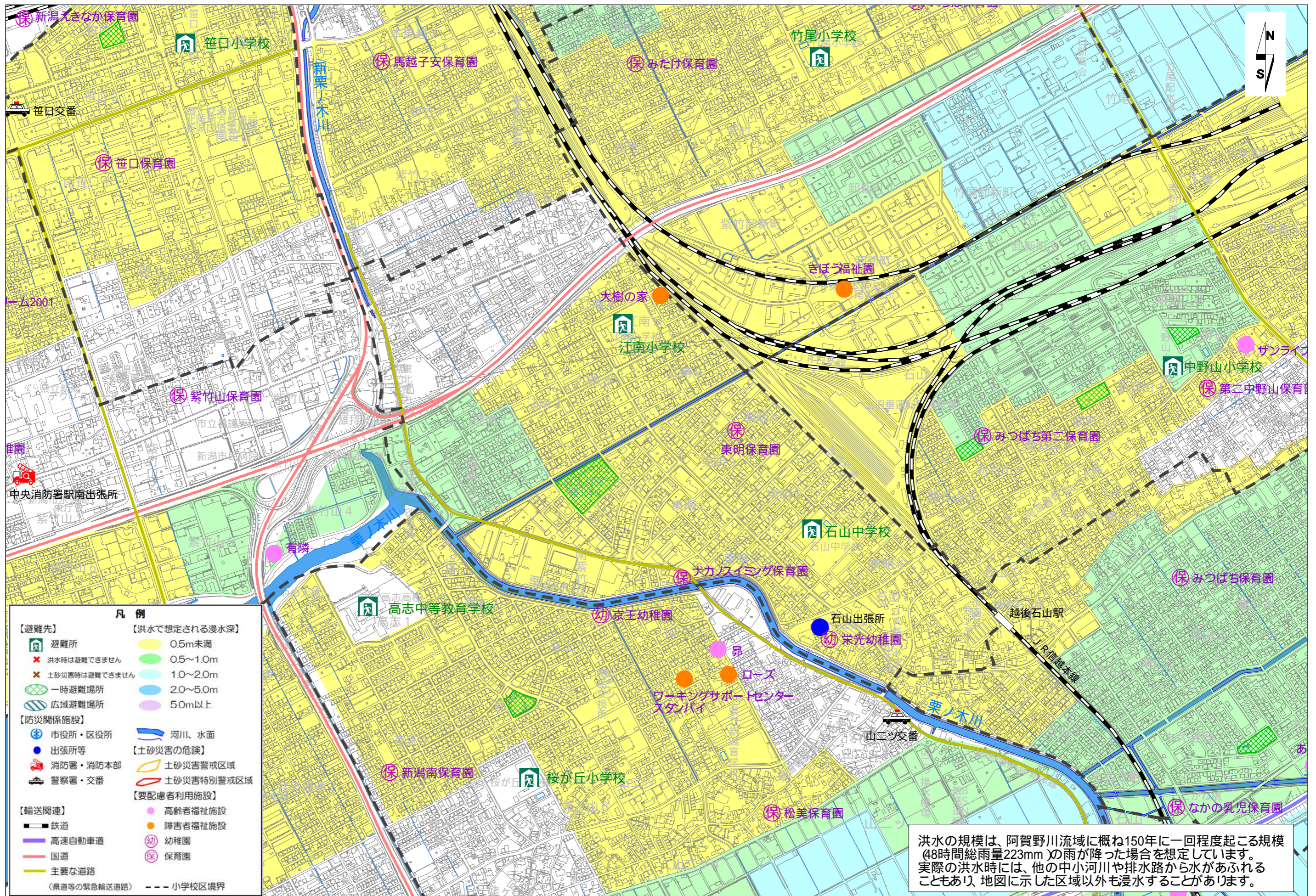
- 凡例**
- 【避難先】**
 - 避難所
 - 一時避難場所
 - 広域避難場所
 - 津波避難ビル
 - 津波避難場所
 - 【防災関係施設】**
 - 市役所・区役所
 - 出張所等
 - 消防署・消防本部
 - 警察署・交番
 - 【輸送関連】**
 - 鉄道
 - 高速自動車道
 - 国道
 - 主要な道路
(県道等の緊急輸送道路)
 - 【要配慮者利用施設】**
 - 高齢者福祉施設
 - 障害者福祉施設
 - 幼稚園
 - 保育園
 - 小学校区境界

標高 (m)

~ -1m	5 ~ 6m
-1 ~ 0m	6 ~ 8m
0 ~ 1m	8 ~ 10m
1 ~ 2m	10 ~ 12m
2 ~ 3m	12 ~ 14m
3 ~ 4m	14 m ~
4 ~ 5m	

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



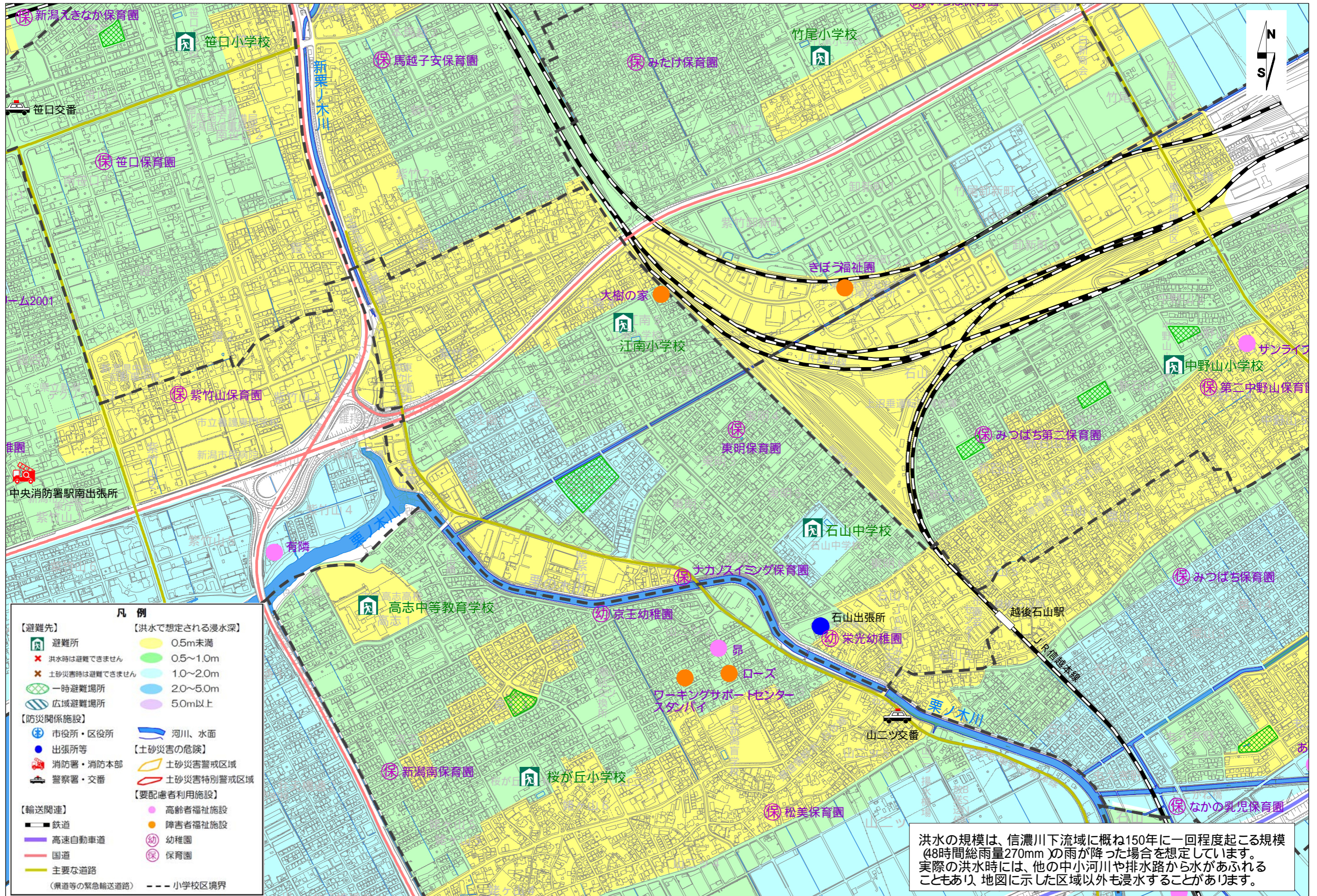


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)



様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

江南小学校区

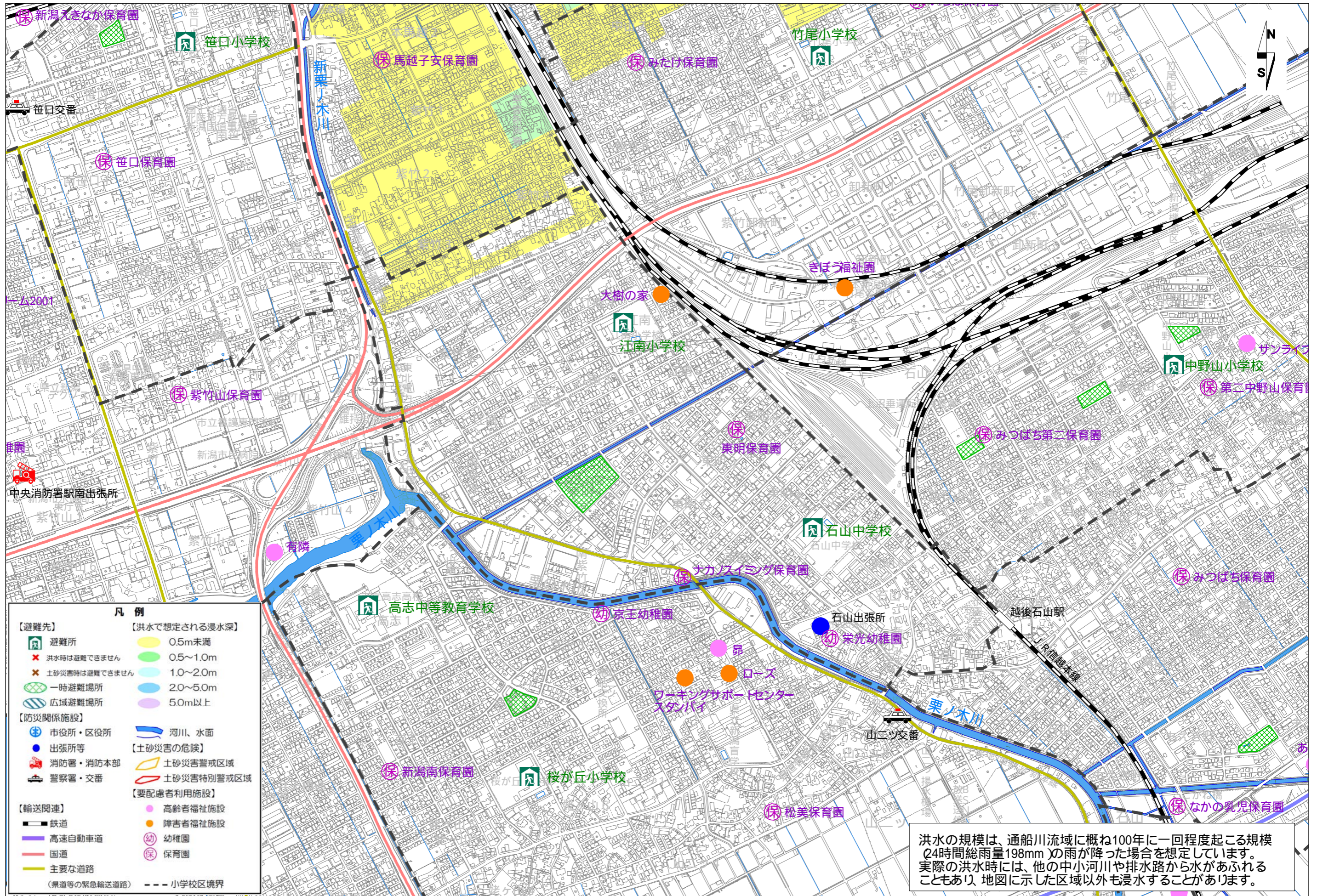


洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（通船川・栗ノ木川下流（新栗ノ木川））



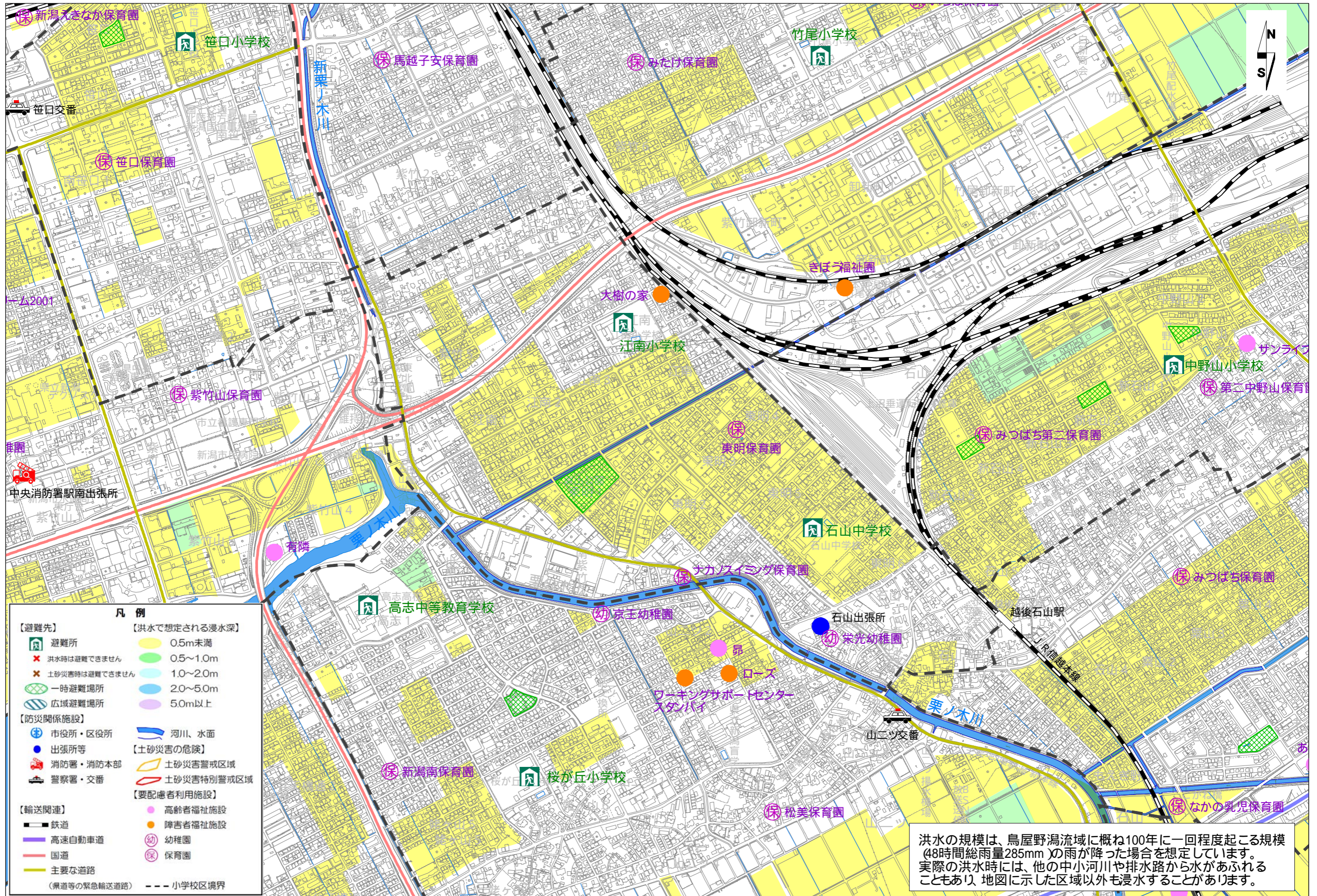
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 通船川 栗ノ木川下流(新栗ノ木川)浸水想定区域（新潟県、平成17年8月25日）



洪水の規模は、通船川流域に概ね100年に一回程度起こる規模（24時間総雨量198mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路）

江南小学校区



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路浸水想定区域(新潟県,平成18年8月25日)

0 100 200 400 600 800 1000m